

「肺動脈カテーテルに係る死亡事例の分析 第2部検査編」
に関するWebアンケート集計結果（循環器科）



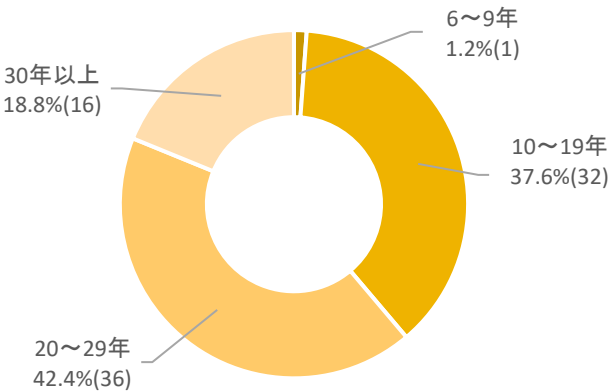
提言第19号 Webアンケート実施概要

調査期間 2024年11月24日～2025年3月14日
対象 日本循環器学会に所属している医師（約17,000名）※肺動脈カテーテルを使用していない医師も含む
回答数 85名

回答者について

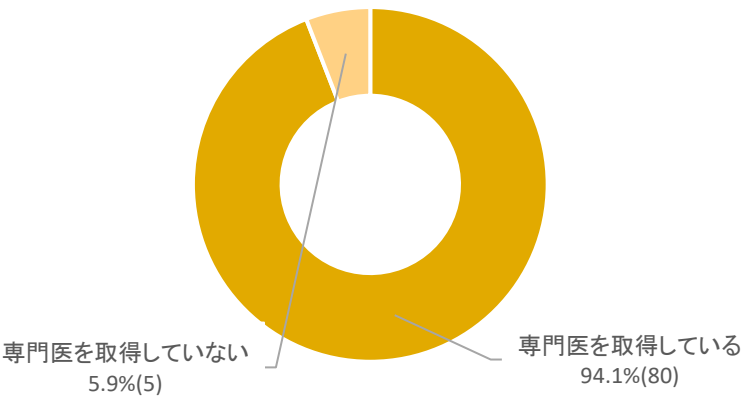
経験年数（循環器内科医として）

(n=85)



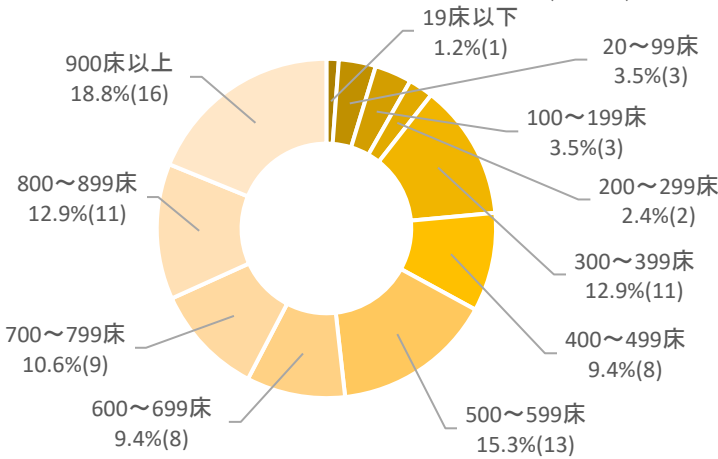
循環器内科専門医の取得の有無

(n=85)



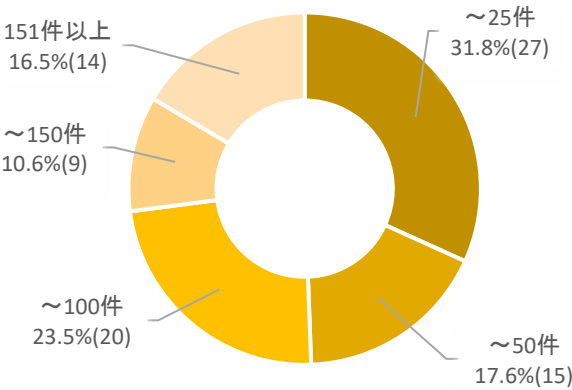
所属医療機関の規模

(n=85)



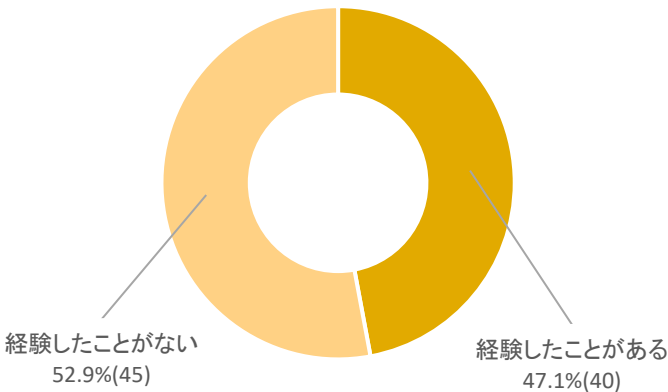
肺動脈カテーテル検査の実施件数(年間)

(n=85)

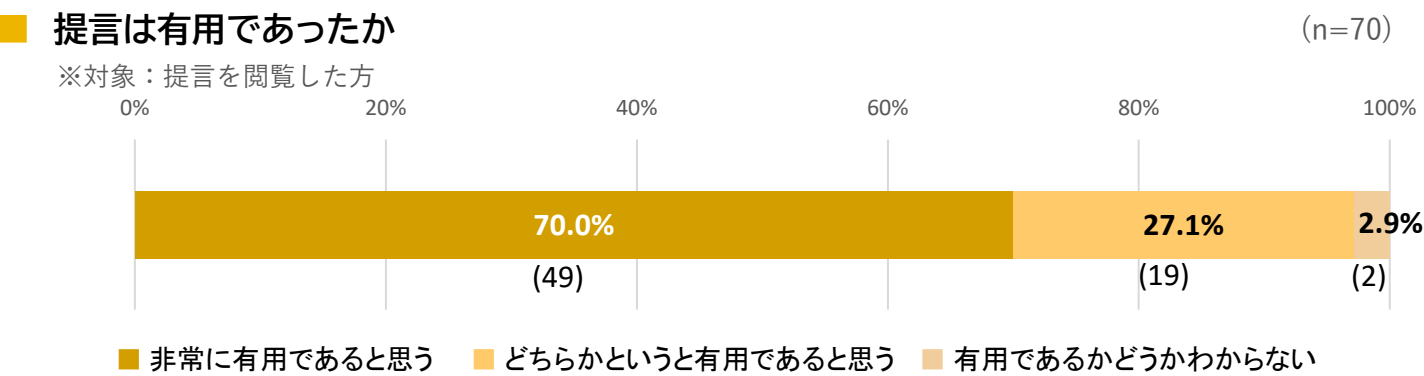
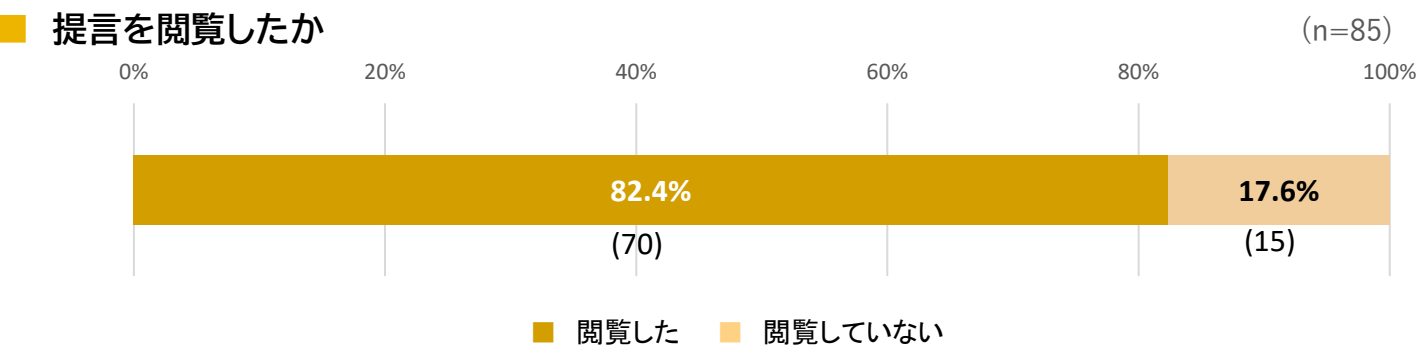
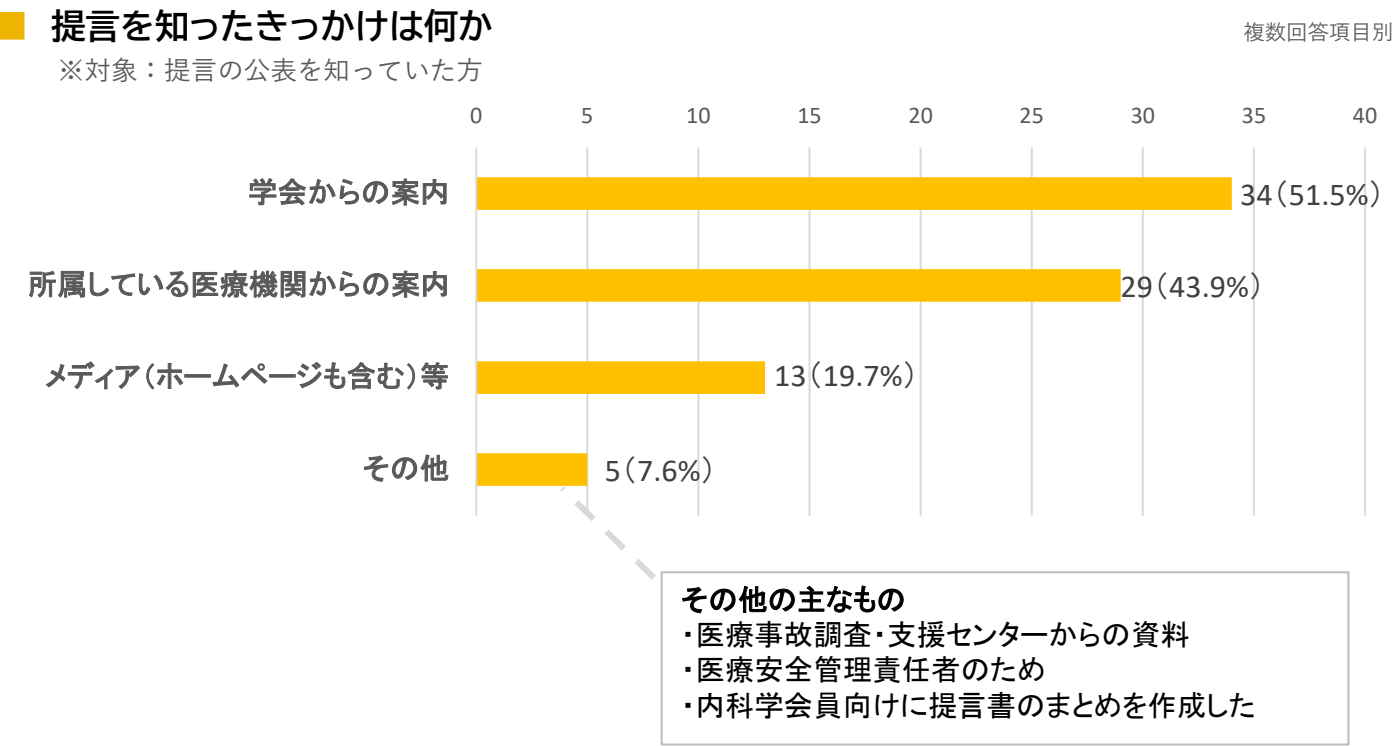
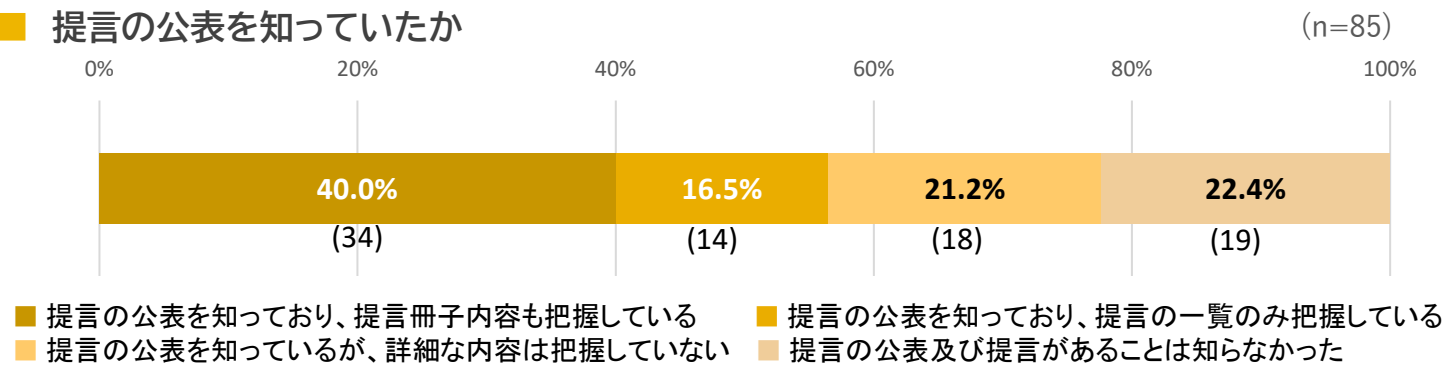


肺動脈カテーテルに関連した出血の経験の有無

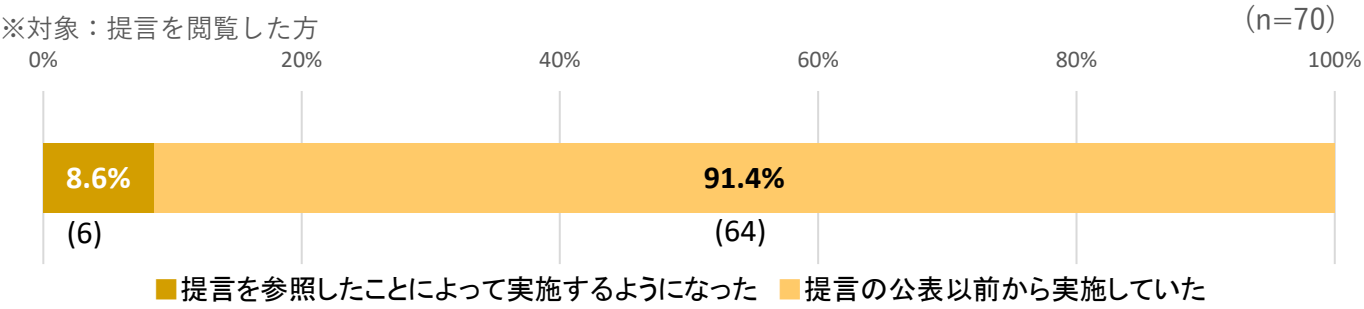
(n=85)



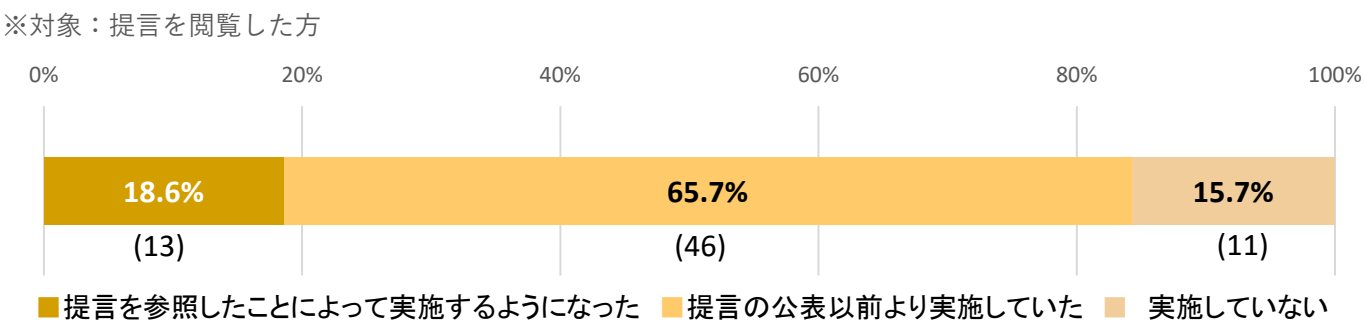
提言の周知状況



肺動脈カテーテル挿入時に抵抗を感じながらゆっくり注入する手技の実施(提言7)の状況



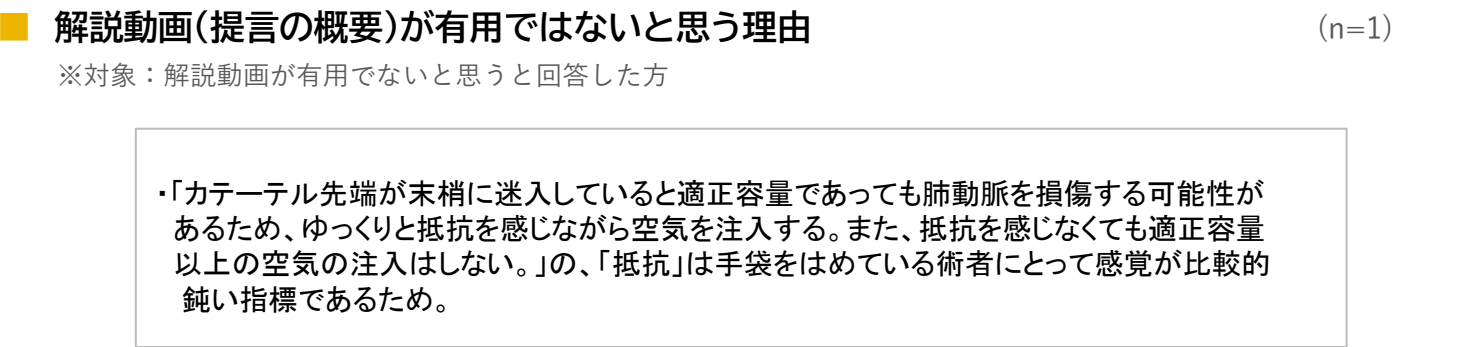
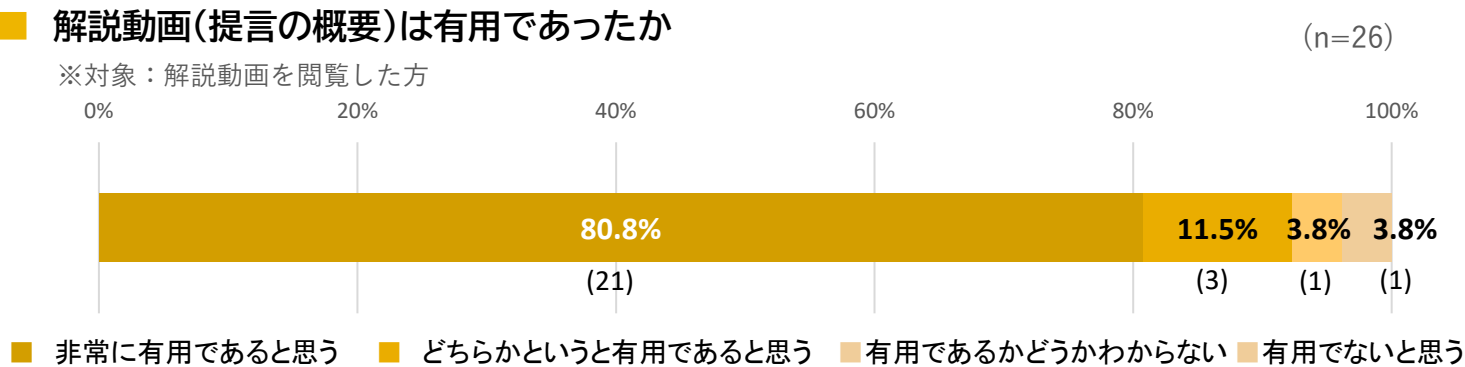
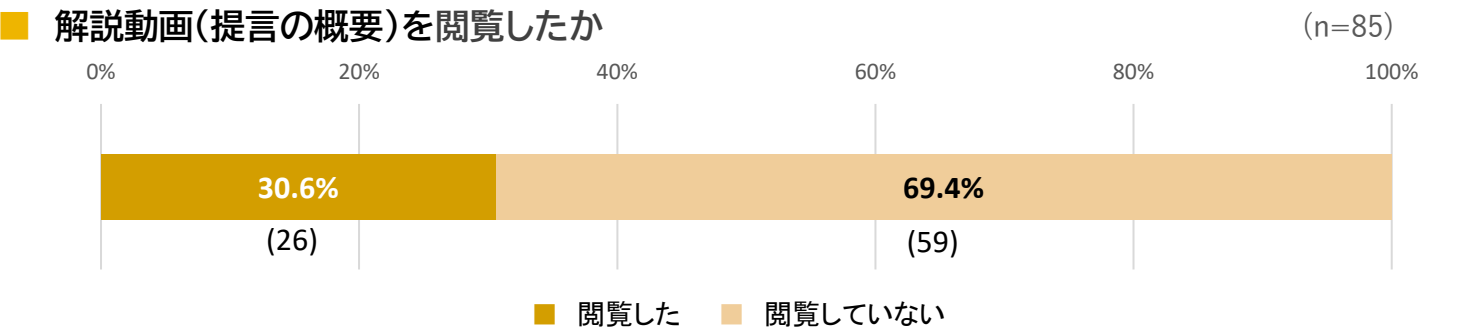
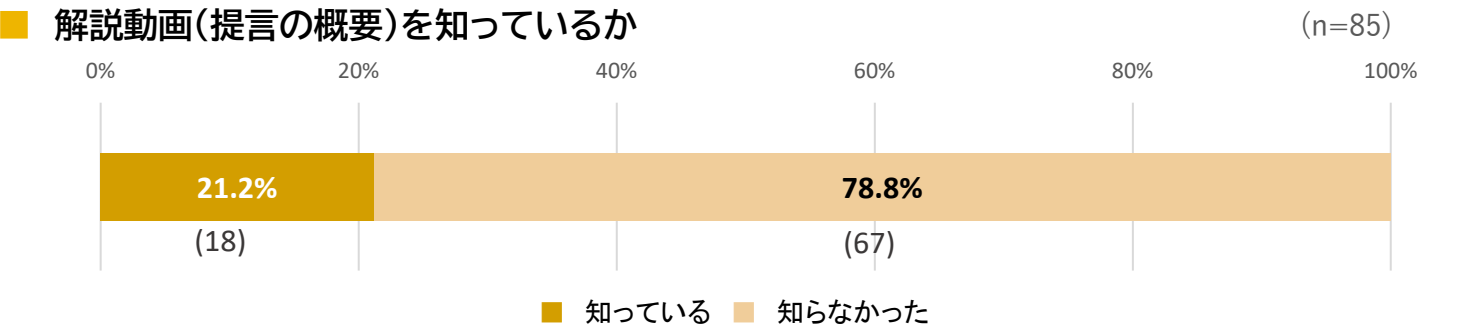
やむを得ずガイドワイヤーを使用する場合、ガイドワイヤーが肺動脈カテーテル先端より突出していないかの確認 (提言7)の状況



●実施していない主な理由

- ・ガイドワイヤーをバルーンから出して肺動脈まで先行させないと、カテーテルが右室から肺動脈に上がらない症例があるため。
- ・透視下で肺動脈末梢に行き過ぎないように監視しながら使用している。
- ・手技を迅速に進めるため。
- ・ガイドワイヤーによる肺動脈損傷、穿孔を避けるためには、使用するガイドワイヤーの先端形状に留意する必要があり、必ずきついJ型となっているものを使用している。

解説動画（提言の概要）の周知状況

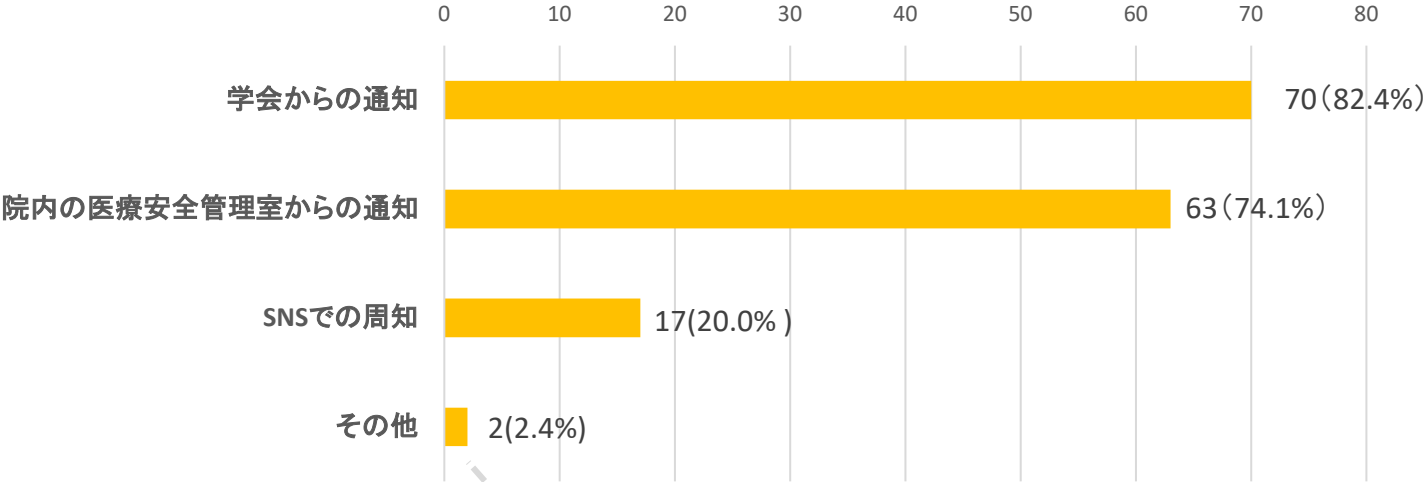


提言の周知方法

臨床現場の医師へ提言を周知するために有効な方法は何か

複数回答項目別

※：すべての回答者



その他の主なもの

- ・各病院のカテーテル室責任者から部下への周知
- ・年間で定められている医療安全に関わる必須講習会の内容に1コマとして組み込めば、全員が閲覧する機会を得られる

センターから公表している提言書についてのご意見

主なもの

- ・熟練者の十分な監督と指導が受けにくい施設や医師にはとても重要な提言と考える。
- ・循環器医のみならず、呼吸器内科医、心臓外科医、カテーテルに関わるコメディカルなど多職種での提言確認が望ましい。
- ・専門医や認定医取得の必須条件にするとよい。
- ・肺動脈カテーテルに限らず医療安全の報告を定期的に学会や地方会で共有する。
- ・最近では学会が新しい治療をレジストリーという形で登録させており、データ分析など実施が可能であれば、提言の作成に関しても、本来、学会が率先してやるべきこと。